山本さんが一人で補修した実家の玄関

古民家を再生して第二の人生を謳歌する山本さん夫婦

山本さんの補修作業はまだまだ続いています

たった一人で古民家再生

熊本地震から6年、一人でコツコツと中尾地区にある実家の古民家を再生するのは、山本美登司さん(69)です。「壁は壊れましたが梁や柱は立派に残っており『補修すれば住める』と専門家に言われ、自分の手で再建しようと思いました」と話す山本さんは以前、建築会社に勤務していました。仕事で培ったノウハウを生かし、思い出が詰まった実家の補修に汗を流しています。

玄関に入ると高い天井が広がりしっくいの壁と、梁や柱のコントラストが風情をかもし出します。かつての表の間は板張りが施され、妻の清美さん(57)のエステサロンに変貌しました。

改装した台所のアイランドキッチンに立ち、「ここからの眺めが気に入ってます」と清美さんは楽しそうです。

自宅の庭で花を育てている一身敬子さん

震災を乗り越えてきた夫婦の笑顔に元気をもらいました。

山本さんの近所に暮らし、花を育てるのが大好きという一身敬子さん(75)のお宅の庭には、ミモザの花が咲き誇っていました。すっかりと春満開の季節です。

将来の夢は大リーガー

「腰ばいれて、脇ば固めて。ええぞ、よか感じぞー」

力強くバットを振る西村優珂君(8)に練習用のボールを投げるのは、「巨人の星」の主人公の父親で熱血漢・星一徹をほうふつとさせる、祖父の森上祐一さん(67)です。

それもそのはず、森上さんは社会人野球の全日本軟式野球連盟に加入する「益城球友」のクラブ設立者で、現在総監督を務めています。中尾地区にある自宅敷地にミニグラウンドを設け、熱心に指導を続けています。

やはり血筋でしょうか、優珂君のバッティングフォームは実に堂に入ったもの。そして、「夢は大リーガー」と口にするのは優珂君、ではなく星一徹(森上さん)で、孫の将来が楽しみで仕方ないようです。

森上家は祐一さんの長男と、次女の西村美沙妃さん(34)家族の三世帯暮らし。美沙妃さんの夫の祥さん(34)は、

自宅の敷地のミニグラウンドで野球の練習に汗を流す西村優珂君(左)と祖父の森上祐一さん

お兄ちゃんたちを従える女王様。左から西村昊陽君と美波ちゃん、優珂君

8歳とは思えないほど、優珂君のボールには力があります

優珂君のバッティングフォームをチェックする森上さん